

施策評価の実施方法

1. 施策評価の概要

(1) 対象施策及び事業

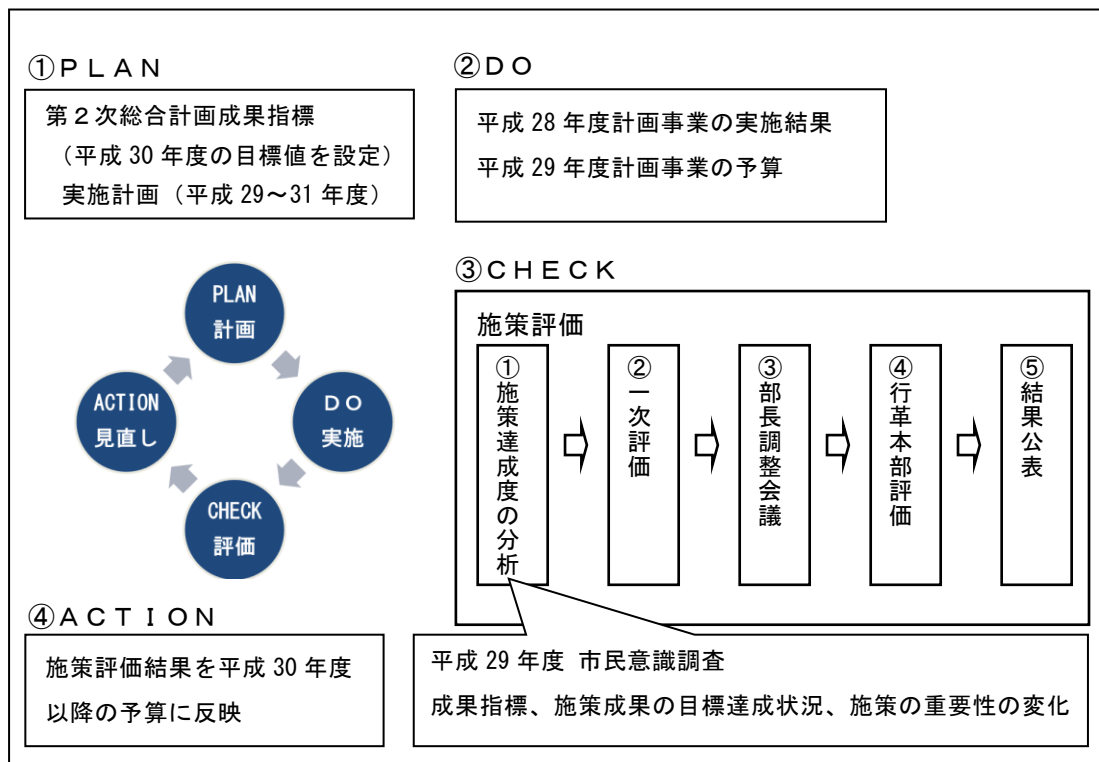
評価対象は第 2 次総合計画に掲げた 36 施策及び実施計画で進行管理している 204 の主要事業（平成 29 年度現在）が対象となります。

(2) 成果指標と目標値

施策評価では、第 2 次総合計画に掲げた施策の成果を示す代表的な指標の 5 年後の姿を成果指標とすることを基本としますが、他に的確な指標がある場合等は変更する扱いとします。また元々の指標が数値化されていない施策もありますが、その場合は定性的な記述と合わせて達成度を総合的に評価するといった工夫を行います。

(3) 評価の流れ

以下のとおり、実施しました。



図表 1 評価の流れ

①施策達成度の分析

施策の達成度については、第2次総合計画に掲げた成果指標の実績値を調べるとともに、市民の満足度と重要度について市民意識調査を実施して把握します。

成果指標は第2次総合計画に掲げた項目としますが、数値化が難しいものや、他に適切な指標がある場合は、適宜修正を加えていくこととします。

②一次評価

施策を主に担当する主管課長と副次的に担当する関係課長が協議して、一次評価を行います。事業群の施策への「貢献度」を判定しつつ、施策実現に向けたキーワードや事業群ごとに「施策の成果と課題」や「今後の方針」を整理し、総合評価を行います。

また、総合評価と共に、施策内の事務事業の貢献度判定を行います。

③部長調整会議

施策の主管課長が評価した評価シートの点検等を行い、当該施策の方向性や施策内の事務事業に関する予算の方向性を確認します。高度な視点から、現実的な対応を協議します。

平成29年度は、以下のポイントを踏まえ、協議しました。

◆ ポイント1 第2次総合計画の見直し

- ・社会経済情勢等の変化を捉えた評価（少子高齢化、人口減少等）
- ・後期基本計画の策定、今後5年間の方向性を見据える
- ・「健康」応援都市の実現との関係性

◆ ポイント2 厳しい財政状況

- ・施策にメリハリをつけることで、コストを効率化・重点化
- ・行財政改革の更なる推進（アクションプランや公共施設等総合管理計画）

◆ ポイント3 国・都の動向

<国の動向>

- ・「地域共生社会」の実現に向けた動き
- ・児童福祉法の改正（子どもの貧困対策や、教育環境の充実）
- ・一億総活躍社会の実現（女性の活躍推進、働き方改革等）など

<都の動向>

- ・待機児童対策の加速化
- ・オリンピック・パラリンピック開催（インバウンド、文化、スポーツ）など

④行革本部評価

部長調整会議の内容を踏まえ、最終的な評価を行います。

(4) 評価の時期

施策評価は、第2次総合計画の進行管理という役割も担っており、計画の2年目の平成27年度と4年目の平成29年度に実施することとしています。

また、評価結果を予算編成に活用できるよう、予算編成作業の始まるまでに最終評価を行うこととしています。

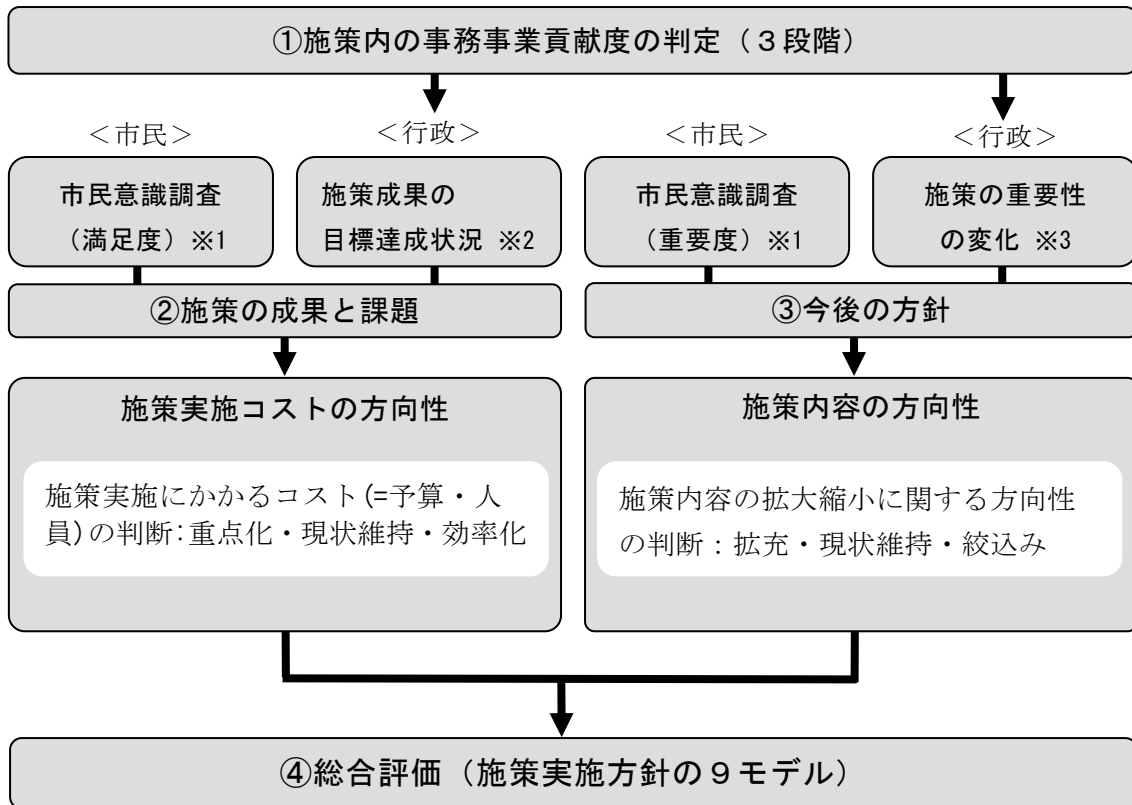
(5) 評価結果の公表

評価結果は、市の情報公開コーナーや市報、ホームページ等で公表します。評価結果の公表に当たっては、市民への説明責任が果たせるよう、分かりやすい表現に努めます。

2. 評価の仕組み

(1) 判定の方法

評価は「①施策内の事務事業貢献度の判定」「②施策の成果と課題」「③今後の方針」及び「④総合評価」という4つの段階で行います。全体の流れを以下に示します。



- ※1 「市民意識調査 (満足度・重要度)」は、無作為に抽出した5,000人に対する市民意識調査の結果をもとに客観的に判定されます。
- ※2 「施策成果の目標達成状況」は、第2次総合計画の各施策に掲げた目標値と評価実施年度における直近の実績値から主管課長が判定します。
- ※3 「施策の重要性の変化」は、主管課長が「施策成果の目標達成状況」や社会経済情勢の変化を勘案して判定します。

図表2 判定の方法

(2) 評価項目の考え方

①総合評価

総合評価は、事業群の施策への「貢献度」を判定しつつ、「施策実施コストの方向性」と「施策内容の方向性」をそれぞれ評価した上で、その結果から「施策実施方針」を導き出す仕組みとします。

<施策内の事務事業貢献度の判定>

事務事業貢献度については、施策内の各事務事業が施策目標に向けて果たす役割の大きさを下記基準のとおり3段階で判定します。

判定基準	事後評価	事前評価
A	施策目標達成のため当該事務事業が他の事務事業と比較して、貢献する度合いが極めて高い事業である。	施策目標達成のため当該事務事業が他の事務事業と比較して、極めて貢献が高いことが見込まれる事業である。
B	施策目標達成のため当該事務事業が相応に貢献する事業である。	施策目標達成のため当該事務事業が相応に貢献することが見込まれる事業である。
C	施策目標達成のための事務事業としては見直しが必要な事業である。	施策目標達成のための事務事業として現時点では期待通りの効果が見込まれない事業である。

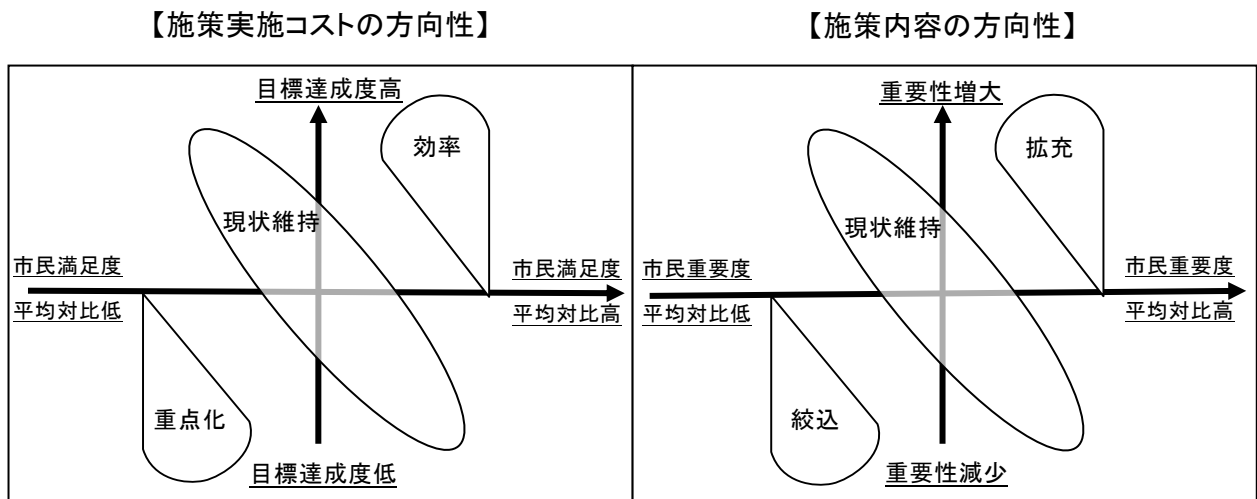
図表3 施策内の事務事業貢献度の判定基準

<施策実施コストの方向性>

各施策分野における今後の施策実施コストの方向性については、市民意識調査における満足度をベースに、政策目標の達成状況を加味して判断しています。

<施策内容の方向性>

各施策分野における今後の施策内容の方向性については、市民意識調査における重要度をベースに、施策の重要性の変化（国や都の制度変更や計画策定時の予測を上回る社会状況の変化に伴うもの）を加味して判断しています。



図表4 施策実施コスト・施策内容の方向性の類型化モデル

なお、施策評価における「現状維持」は、「現在の計画水準を維持すること」を意味するものとします（前年度のコストや施策内容をそのまま維持するという意味ではありません）。

これは、評価の対象である「施策」が、建設工事やシステム構築など一時的な事業も含めた複数の事務事業から成り立っていることから、前年度予算との対比で評価することに無理があるためです。

< 施策実施方針の9モデル >

それぞれ3つの類型で評価される「施策実施コストの方向性」と「施策内容の方向性」とを掛け合わせて、次の9モデルに分類します。

		施策実施コストの方向性		
		重点化	現状維持	効率化
施策内容の方向性	拡充	【Ⅰ】 成果の向上を図るため、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅱ】 成果の向上を図りつつ、コストは現状を維持する施策領域	【Ⅲ】 成果の向上を図りつつ、コストを抑制する施策領域
	現状維持	【Ⅳ】 成果を維持するため、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅴ】 成果を維持しつつ、コストも現状を維持する施策領域	【Ⅵ】 成果を維持しながら、コストを抑制する施策領域
	絞込み	【Ⅶ】 内容の見直しを図りつつ、コストの重点化を行う施策領域	【Ⅷ】 内容の見直しを図りつつ、コストは現状維持すべき施策領域	【Ⅸ】 内容の見直しを図り、コストを抑制すべき施策領域

図表5 施策実施方針の9モデル

(3) 満足度・重要度の考え方

①加重平均による指数化の実施

市民意識調査における満足度・重要度については、5段階で数値化しています。

それぞれに価値（＝加重）を与え、平均をとることで、質問項目の回答結果全体の偏りを補正します。

回答内容	満足 重要	やや満足 やや重要	やや不満 あまり重要でない	不満 重要でない	わからない	無回答
ポイント	+2	+1	-1	-2	0	母数から除外

図表6 加重平均に用いる数値

②加重平均のメリット～回答全体の数値化

単純に、満足（満足・やや満足）・不満（やや不満・不満）の比率を取り上げるだけでは、回答全体のバランスを示すことができません。しかし、それぞれの回答に価値（＝加重）を与えることで、満足・不満の軽重の度合いを反映し、回答全体の偏りを補正することができ、回答結果の適切な比較が可能となります。

【事例】

	満足 重要	やや満足 やや重要	やや不満 あまり重要でない	不満 重要でない	わから ない	無回答	計
設問1	10人	50人	20人	10人	10人	20人	120人
設問2	20人	40人	20人	10人	10人	20人	120人
設問3	10人	50人	20人	20人	10人	10人	120人

ある3つの設問について、回答の内訳が上表のようになった場合、各設問の満足度及び加重平均値は次のようになります。単純に満足度を回答者数で割った数値が一緒であっても、加重平均値は、それぞれに違う数値であることがわかります。

	単純平均 (%)		加重平均値 (ポイント)	
設問1	$(10+50) \div 120$	50.0	$(10 \times 2 + 50 - 20 - 10 \times 2) \div (120 - 20)$	0.30
設問2	$(20+40) \div 120$	50.0	$(20 \times 2 + 40 - 20 - 10 \times 2) \div (120 - 20)$	0.40
設問3	$(10+50) \div 120$	50.0	$(10 \times 2 + 50 - 20 - 20 \times 2) \div (120 - 10)$	0.09

③ 3段階評価の判定基準

本評価では、満足度・重要度ポイントの全体平均（平成 29 年度は満足度 0.01／重要度 1.12、平成 27 年度は満足度-0.05／重要度 1.05）の±0.10 の範囲内にあるものは「中（ほぼ平均）」と評価し、平均対比 0.10 ポイント以上高い／低いものを「高（平均を上回っている）／低（平均を下回っている）」と 3 段階評価しています。

項目	年度	高 (平均を上回っている)	中 (ほぼ平均)	低 (平均を下回っている)
満足度	平成 24 年度	-0.00 以上	-0.20～(-0.10)～-0.00	-0.20 以下
	平成 27 年度	0.05 以上	-0.15～(-0.05)～ 0.05	-0.15 以下
	平成 29 年度	0.11 以上	-0.09～(0.01)～ 0.11	-0.09 以下
重要度	平成 24 年度	1.15 以上	0.95～(1.05)～ 1.15	0.95 以下
	平成 27 年度	1.15 以上	0.95～(1.05)～ 1.15	0.95 以下
	平成 29 年度	1.22 以上	1.02～(1.12)～ 1.22	1.02 以下

図表 7 満足度・重要度の 3 段階評価の判定基準

3. 評価の活用

(1) 施策評価結果を踏まえた予算の適正配分

施策評価制度は、P D C Aサイクルの一部であり、評価結果を予算編成や次の総合計画の見直しに反映させていくことが必要です。

平成 29 年度は、施策評価結果に基づき、特に拡充・重点化を図るべき施策分野を特定するとともに、「施策実施コストの方向性」で「効率化」と評価した施策については、予算を原則縮減とするなど、予算編成における資源の適正配分に活用します。

(2) 総合計画との連携

施策評価は総合計画の施策の達成度を把握するという進行管理の役割を担っています。評価結果は前述のとおり予算の適正配分に反映させると共に、次の総合計画の見直し・策定する場合に、効果的に活用していく必要があります。

(3) 事務事業評価との連携

施策評価において「施策実施コストの方向性」で「効率化」と評価した施策に属する事業については、予算の縮減に際して事業の見直しを伴うこととなります。これらの事業のうち、総合評価に基づき特に見直しが必要であると認められる事業については、事務事業評価を活用して事業担当課以外の客観的な評価を行うなど、効果的な見直しを行うとともに、着実な進行管理を行います。

4. 評価シートの内容について

施策評価シート

		登録者(課長)名【1】	
【施策の概要】		主管課(関係課)【2】	
施策名【3】		分野【4】	まちづくりの方向性【5】
概要	施策全体の課題【6】		施策実現へむけたキーワード【7】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">第2次総合計画に掲載されている内容を記載</div>		施策の目標【8】
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】		
		第2次総合計画策定後から評価年度の間における制度、社会状況の変化など事実に関することを記載	
事業群	事業群名【10】		事業群の施策上の位置づけ【11】
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">第2次総合計画に掲載されている「事業群名」を記載</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">施策目標の達成に向けて、当該事業群がどのような点で貢献しているか、効果が見込まれるかを記載</div>
	2		
	3		
	4		

【施策の成果】

				年度	24	25	26	27	28	29	
成果指標【12】	指標1	名称		目標値				単位			
		算出式・説明式		実績値							
	指標2	名称	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto;"> 第2次総合計画に掲載されている内容のうち、以下の内容を記載 ・名称は「施策の成果を示す代表的な指標」 ・算出式・説明は「指標設定の理由、目標の根拠」 ・目標値は「平成30年度目標値」 ・達成率は目標値に対する実績値の割合 ・実績値は各年度の実績値。ただし市民意識調査の満足度、重要度の割合については、新しい調査結果が出るまでは同じ数値とする </div>	単位							
		算出式・説明式									
	指標3	名称		単位							
		算出式・説明式									
	指標4	名称		目標値				単位			
		算出式・説明式		実績値							
					達成率						
	達成率の平均値										

【市民意見】【13】

	24年度	27年度	29年度
満足度(%)			
満足度(平均ポイント)			
重要度(%)			
重要度(平均ポイント)			

市民意識調査において、当該施策に関連する分野の満足している(重要と思っている)人の割合
平均ポイントは、満足度(重要度)をポイント換算して数値化したもの

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【12】 成果指標の達成率と事業の進捗状況を勘案して判定

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】 <input type="checkbox"/> まだ未達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度【15】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	
施策の成果と課題 (取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等)【16】		<p>これまで施策を実施してきたことの成果についての「事実」と施策関係課として判断した「課題」について記載</p> <p>【9】 留意すべき点を踏まえて施策関係課として情勢の変化を判定。基準は第2次総合計画策定時と比較</p> <p>【13】 市民意見の当該施策の満足度や重要度の平均ポイントと全ての施策の満足度(重要度)の平均をもとに±0.1ポイントの範囲内を基準に評価</p>	
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】 <input type="checkbox"/> 弱くなっている <input type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度【18】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	
今後の方針 (具体的な事業群や事務事業を示しながら)【19】		<p>【16】 施策の成果と課題や【9】 留意すべき点などを勘案して、施策関係課としての「方針」を記載</p>	
総合評価	施策内容の方向性【20】 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性【21】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化		
	施策実施方針【22】	<p>【20】 施策内容の方向性と【21】 施策実施コストの方向性を掛け合わせて、9モデルのうちから判定</p>	

【一次評価後の事情変更等】

説明【23】	<p>一次評価が終了したのち、行革本部評価を行うに当たり、考慮すべき社会環境の変化や相当の事情変更があった場合は、この欄に説明を記入</p>
--------	--

【行革本部評価】

総合評価	施策内容の方向性【20】 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み	
	施策実施コストの方向性【21】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化	
	判断理由等【24】	
	施策実施方針【22】	

【施策内の事務事業貢献度判定】

事業群	名称【25】	担当課【26】	概要【27】
	<p>第2次総合計画に掲載されている「総合計画主要事業」を記載</p> <p>※一部、予算事業名などとあわせ、分かりやすい名称としているものがある</p> <p>※事業がまだ実施されていないものについては、【事前】と記載している</p>	<p>事業担当課の名称を記載</p>	<p>当該事業の目的・実施方法など概要を簡潔に記載</p> <p>※当該事業が他の事務事業で実施しているものについては、「～の事業で実施」と記載</p>
事業の合計			

